

豊かな団地国家

東京 23 区あるいは淡路島とほぼ同じ面積を持つ赤道直下の島国。それがシンガポール共和国である。面積は世界で 175 位。人口密度はモナコ公国に次いで世界第 2 位である。街の中を車で回ってみても戸建住宅を見ることは殆どなかった。

500 万人近い国民のうち 85%を超える人達は HDB（政府・住宅開発庁）が建設した高層集合住宅に住んでいる。そこはシンガポール国民でなければ住むことはできない。それ以外の 15%はプライベート住宅。一部集合住宅ではシンガポリアン以外でも購入可能だが、価格は 4~5 倍ほど高くなる。

日本ではマイホームを持つことが夢であった。同じ島国でもシンガポールの持ち家率は 91%で世界でも

トップクラスを誇っている。それに対して日本は 64%に留まっている。これらは素晴らしい政治家リー・クワンユー首相の功績が大きい。それに対して一年ごとに替わる（変わらざるを得ない）日本の首相のリーダーシップの無さには失望しかない。

多民族国家（華人 75%、マレー系 14%、インド系 9%、その他 2%）は、宗教（キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教他）も多様化。更に言語（公用語はマレー語、英語、中国語、タミル語）も様々である。しかし私から見てこの国は不思議な調和が取れているように思えた。

その理由は過去の民族分断政策で、各民族は地域ごとに分かれて住んでいた。しかし政府の方針でニュータウン入居の際、民族、宗教、言語に一切関係なく抽選でユニットを決めた。その結果、全ての人が混ざり合い「シンガポリアン」となったのだ。

撮影 2011 年夏

